



【問合せ先】

第七管区海上保安本部

交通部 安全対策課

課長 古場 芳樹

TEL 093-321-2931 (内線 2640)

令和4年7月14日
第七管区海上保安本部

Withコロナにシフトした夏到来!! 「**危険**」は自粛してくれない!

～海の事故ゼロキャンペーン・夏季安全推進活動期間～

海の月間(7/1～7/31)に合わせ、官民の関係者が一体となって、海難防止思想の普及・高揚を図るため、海の事故ゼロキャンペーン(7/16～7/31)を推進します。また、この時期マリレジャーの最盛期を迎えることから、各種レジャー関係者に対する安全指導等を集中的に実施する夏季安全推進活動期間(7/16～8/31)も併せて推進していきます。

1 海の事故ゼロキャンペーン

(1) 期間：7月16日(土)から7月31日(日)までの間

(2) 目的：「海難ゼロへの願い」をスローガンに官民一体となって、海の事故ゼロキャンペーンを推進し、海難防止思想の普及、高揚を図るものです。

(3) 重点事項

イ 小型船舶の海難防止

プレジャーボート等の小型船舶の海難種類では、機関故障が最も多いことから、発航前検査チェックリストを活用した適切な発航前検査の徹底や整備事業者等による定期的な点検整備の励行を図るほか、衝突海難が多い漁船にあっては適切な見張りの徹底を図ります。

ロ 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

見張り不十分が原因の衝突海難が多いことから、常時適切な見張りの徹底を図るほか、相手船が分かりやすい早めの動作や無線等を活用するなどし、相手船とコミュニケーションを図り適切な操船を行うことの推進を図ります。

ハ ライフジャケットの常時着用など自己救命策の確保

自己救命策(ライフジャケットの常時着用、連絡手段の確保、118番等緊急電話番号の普及)確保に関する周知徹底を図ります。

ニ ふくそう海域等の安全性の確保

荒天時の走錨^{*}等に起因する事故防止のため、湾外等の安全な海域への避難を促すほか、「走錨事故防止ポータルサイト^{*}」を活用した普及啓発活動や荷主等への協力要請等を推進し、船舶交通の安全確保を図ります。

※走錨：強風などによって船が錨を引きずりながら流されること。

※走錨事故防止ポータルサイト

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kaijyoukoutsu/soubyo.html>



(資料1～3参照)

2 夏季安全推進活動期間

- (1) 期間：7月16日（土）から8月31日（水）までの間
- (2) 目的：マリレジャーの最盛期において、管内各地域のレジャー活動の状況に応じて、プレジャーボート運航者、ウォーターアクティビティ活動者や遊泳者等への安全指導を集中的に行い、海難防止思想の普及、高揚を図るものです。

3 管内海水浴場の動向及び七管区への対応

第七管区海上保安本部管内にある海水浴場（122ヶ所）は、開設108ヶ所、閉鎖14ヶ所となっています。

遊泳者がコロナ禍で三密を回避するため、遊泳禁止箇所を選び遊泳すると、監視員の不在が惹起する溺水をはじめ、泳力を見誤り沖合から岸に帰ってこれなくなる事故、また、遊泳区域が明示されないことで、遊泳者と水上オートバイやマリアクティビティ愛好者が混在する状況から起こる接触事故が懸念されます。

この状況から、今夏、遊泳者に対し、管理者が「安全、安心の対策」を講じた「開設海水浴場」で遊泳することを推奨するほか、関係機関と連携し、海浜事故防止に取り組めます。（資料4参照）

令和4年度 海の事故ゼロキャンペーンにおける各部署の活動予定

資料1

※ 記載内容は、都合により変更されることがあります。詳しくは最寄の海上保安部署へお問い合わせ下さい。

実施日	連絡先 (電話番号)	場所	実施内容	対象者・参加方法
7月中	長崎海上保安部 095-829-2819	NBCラジオ	ラジオCMによる「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動CM放送	対象者：NBCラジオリスナー
7月4日	大分海上保安部津久見分室 0972-82-2886	大分県臼杵市 臼杵ケーブルネット㈱スタジオ	地元ケーブルTVによる、「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動	対象者：一般の方
7月5日	萩海上保安署 0838-22-4999	山口県萩市 「エフェム萩」スタジオ	地元ケーブルTV、ラジオによる「海の事故ゼロキャンペーン」周知、広報活動	対象者：一般の方
7月5日	佐世保海上保安部 0956-31-5512	根獅子海水浴場	平戸市立根獅子小学校と合同の海の安全教室	根獅子小学校全校児童
7月11,13日	宇部海上保安署 0836-21-2410	山口県宇部市 FMきらら 山口県山陽小野田市 FMスマイルウェーブ	FMラジオによる「海の事故ゼロキャンペーン」周知、広報活動	対象者：一般の方
7月12日	宇部海上保安署 0836-21-2410	宇部市 フジグラン(ショッピングモール)	一日海上保安官による「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動	対象者：一般の方
7月16日～31日	仙崎海上保安部 0837-26-3168	山口県長門市 「FM AQUA」スタジオ	FMラジオによる事前収録周知広報活動	対象者：一般の方
7月16日～31日	仙崎海上保安部 0837-26-3168	山口県長門市 「長門市ケーブルTV」スタジオ	地元ケーブルテレビによる事前収録周知広報活動	対象者：一般の方
7月15日	大分海上保安部 097-523-2197	大分市内	一日海上保安官による「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動	対象者：大分市内の一般市民
7月16日～	福岡海上保安部 092-281-5867	福岡県福岡市	PayPayドーム等における電光掲示板による広報	対象者：一般の方(PayPayドームスポーツ観戦客)
7月16日～	福岡海上保安部 092-281-5867	宗像市、福津市、福岡市、糸島市	ライフセーバー、自治体、警察、消防関係機関との合同パトロール	対象者：マリネジャー実施者
7月16日	対馬海上保安部 0920-52-0643	厳原港フェリーターミナル及び船艇基地	一日海上保安官による「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動	対象者：フェリーをご利用される一般市民(見学自由)
7月中旬(予定)	佐世保海上保安部 0956-31-5512	テレビ佐世保	地元ケーブルTV出演による「海の事故ゼロキャンペーン」周知、広報活動	対象者：佐世保市内の一般の方
7月17日	門司海上保安部 093-321-0398	福岡県北九州市	関門港ポート天国に伴う1日海上保安官による周知広報活動	対象者：一般の方
7月17日	仙崎海上保安部 0837-26-0241	山口県長門市	長門ヨットフェスティバルに伴う海保ブース出展による周知広報活動	対象者：一般の方
7月17,18,23日	長崎海上保安部 095-829-2819	結の浜海水浴場 北陽小学校 長与町	海の安全教室(安全啓発・救命胴衣着用体験・簡易救助機材(うくっちゃボトル)説明)	対象者：小学生
7月18日	佐世保海上保安部 0956-31-5512	九十九島水族館海きらら	させばパールシーと合同での海上安全啓発イベント	対象者：海きらら来訪者
7月20日	佐世保海上保安部 0956-31-5512	FMさせば	地元FMラジオ出演による「海の事故ゼロキャンペーン」周知、広報活動	対象者：佐世保市内の一般の方
7月21,25,26日	長崎海上保安部 095-829-2819	大村湾 郡川 鈴田川	NBCラジオ主催「ライフジャケットプロジェクト」(安全啓発・救命胴衣着用体験)	対象者：小学生
7月23日	三池海上保安部 0944-53-0526	ゆめタウン大牟田店	有明海海難防止対策推進連絡会会員との「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動	対象者：一般の方
7月29日	三池海上保安部 0944-53-0526	福岡県大牟田市 「FMたんと」スタジオ	FMラジオによる「海の事故ゼロキャンペーン」周知、広報活動	対象者：一般の方
7月30日	長崎海上保安部 095-829-2819	水辺の森公園	一日海上保安官による「海の事故ゼロキャンペーン」周知活動	対象者：長崎市内の一般市民
7月31日	佐世保海上保安部 0956-31-5512	大村湾内	P.W.RESCUEとの合同パトロール	対象者：プレジャーボート船長等
7月31日	大分海上保安部津久見分室 0972-82-2886	臼杵湾内	海上安全指導員との合同パトロール	対象者：プレジャーボート船長等
7月下旬	大分海上保安部 097-523-2197	国東市、杵築市、別府市、大分市	管理者、警察との海水浴場合同パトロール	対象者：マリネジャー実施者

令和3年度 夏季期間中の活動状況

1 現場での安全指導



海上での安全指導



防波堤上での安全指導

2 海水浴場における海難防止活動



海水浴客に対する呼びかけ



関係機関との安全指導

3 海難防止啓発活動



若年層に対する安全指導



若年層に対する海上安全教室

■■■■ 海の安全情報 ■■■■

海上保安庁では、全国各地の灯台などで観測した気象・海象の現状、海上工事の状況などの「海の安全情報」を提供しています。
「海の安全情報」は、パソコンやスマートフォンなどで誰でも簡単に利用することができます。

スマートフォン用サイトの表示

スマートフォンなどのGPSの位置情報により、現在地周辺の気象・海象の状況、緊急情報などを地図画面上に表示することで、簡単に必要な情報を利用することができます。

気象状況

気象状況のアイコンをタップすると「風向、風速など」の数値などが確認できます。

海況情報

海域の図形をタップすると船舶事故が多発する海域などの情報が確認できます。

現在地の座標

現在地の緯度・経度を表示します。

海難防止に係る安全啓発情報などの表示

全国的に共通する情報や海上保安部等が提供する情報（地域情報）が確認できます。

緊急情報

緊急情報のアイコンをタップすると航行船舶に影響のある緊急情報が確認できます。

気象情報・注意報など

気象情報・注意報などのアイコンをタップすると気象庁が発表する気象情報・注意報などを確認できます。

ホームページです

海の ゼロ 事故 ZERO キャンペーン

2022
7/16 ▶ 31

海難 **0** への願い

Water Safety Guide

小型船舶の船長が遵守しなければならない事項

モーターボートや水上オートバイなどのプレジャーボート、その他の小型船舶を安全に利用していただくため、小型船舶操縦者（船長）に対し、法令で遵守事項を定めています。

- 酒酔いなど操縦の禁止
- 免許者の自己操縦
- 発航前の検査
- ライフジャケットの常時着用
- 見張りの実施
- 事故時の人命救助
- 危険操縦の禁止

平成30年2月1日以降、小型船舶の船室外の甲板上では、原則すべての乗船者にライフジャケットを着用させることが、船長の義務となりました！

ウォーターアクティビティ（海辺でのレジャー活動）を安全に無事故で楽しむための総合情報サイト

緊急情報配信サービス
24時間体制で海上保安庁が発表する緊急情報や気象庁発表の気象情報・注意報などを電子メールで配信します。

新規登録ページ

パソコン用サイト | スマートフォン用サイト | 携帯電話用サイト

パソコンやスマートフォン、携帯電話から、簡単にアクセスできます。

海の安全情報 で 検索

主催 / 官 / (公社)日本海難防止協会 (公財)海上保安協会
海上保安庁

共催 / 総務省 スポーツ庁 水産庁 国土交通省 海路審判所
気象庁 運輸安全委員会 (公財)日本海事センター

2022 ミス日本「海の日」 廣 安紀奈

重点事項

1 小型船舶の海難防止

エンジントラブルが多発しています!!

プレジャーボートの海難で一番多いのがエンジントラブルです。エンジントラブルを防止するため、以下の事項を励行しましょう。

1.適切な発航前検査の実施

燃料、エンジンオイル、バッテリー、冷却水などの検査を確実にし、安全運転を心がけましょう。
また、家族やマリナー等に航海予定を伝え、万が一に備えましょう。

2.整備事業者等による定期的な点検整備の実施

「中古艇」は特に点検整備が重要です。整備事業者等に依頼し事故防止に備えましょう。

重点事項

3 ライフジャケットの常時着用など自己救命策の確保

万が一、海に転落した場合、
①海上に浮く ②連絡手段を持つ ③速やかな救助要請 という3点が必要不可欠です。

常時着用

ライフジャケットの常時着用

連絡手段の確保

防水バック入り携帯電話などの連絡手段の確保

緊急通報用電話番号の有効活用

海難「事件・事故」は118番

海上保安庁では聴覚や発話に障害を持つ方を対象に、スマートフォンなどから入力操作で緊急通報が可能となる「NET118」というサービスを運用しています。

重点事項

2 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

なんといっても見張りが重要です!!

海難で一番多いのが衝突であり、原因は「見張り不十分」や「不適切な操船」が多数を占めています。

1.常時適切な見張りの徹底

「居眠り運転」や自動操舵任せで見張りをおろそかにせず、常時適切な見張りを行います。

2.船舶間コミュニケーションの促進

次により、早期に船舶間の意思疎通を図り、適切な操船を行います。

- 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
- 国際VHFや汽笛信号などを活用する
- AIS情報の活用と正しい情報の入力

3.漁ろう中の船舶との衝突防止

漁ろう中の船舶は不測の動きをする場合があることから動静に留意し、早期かつ大膽な避航を心がけましょう。

重点事項

4 ふくそう海域などの安全性の確保

台風など接近の際は早め早めの対応を!!

走錨に起因する事故防止のために、経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制の確保による走錨対策が重要です。

1.船長、運航管理者などへのお願い

- 「自船が走錨を起こしうる」という認識の下、危機感を持って事故防止に備えましょう。
- 最新の気象・海象情報を入手し、時間的余裕を持って避錨を開始しましょう。
- 走錨の可能性を把握するため自船及び周囲の船舶の錨泊状況の監視など、適切な当直を実施しましょう。
- 主機関・スラスターなどを直ちに使用できる状態にしましょう。

2.荷主企業などへのお願い

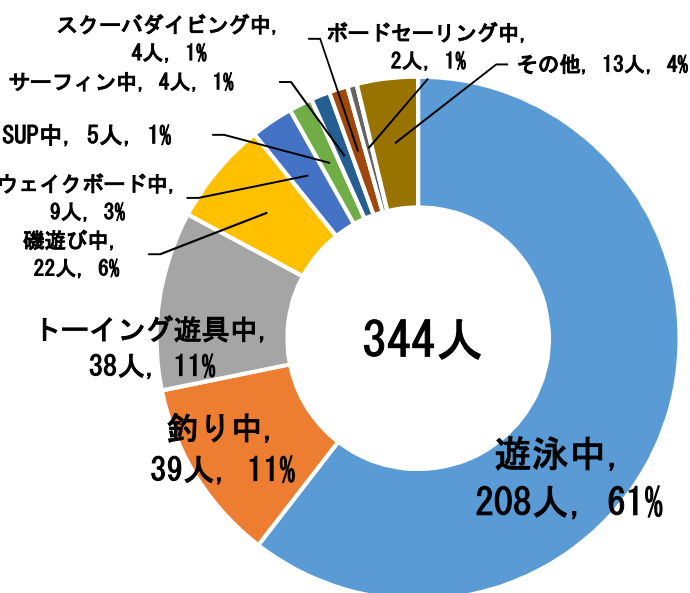
- 船舶が時間的余裕を持って他の海域に避錨できるよう、荷役計画の変更など柔軟な対応をお願いします。

～必ず管理されている開設海水浴場へ！～

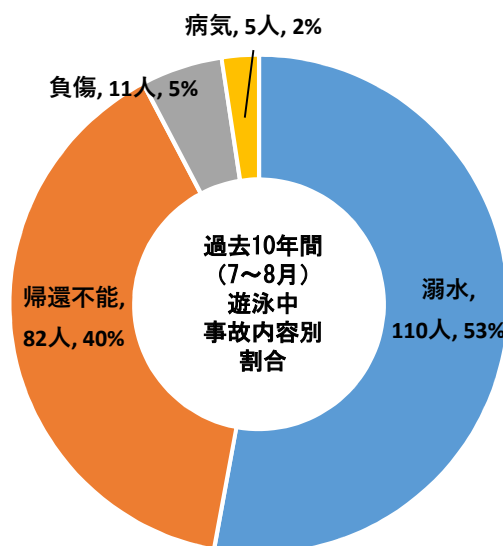
第七管区海上保安本部管内の7月から8月における遊泳中の事故は、過去10年間で208名、そのうち溺水者が110名となっており、110名のうち死者行方不明者は**63名 (57%)**となっています。

この死者・行方不明者のうち、**30名**が海水浴場で遊泳中、**33名**が海水浴場以外での遊泳中となっています。

マリンレジャーに伴う海浜事故活動内容別
(H24～R3,7～8月)



遊泳中の事故内容別
(H24～R3,7～8月)



海水浴場での事故

～高校生が漂流する事案発生～



令和3年7月4日(日)1600頃、下関市所在の安岡海水浴場で少年14名が遊泳していたところ、14名のうち少年1名(17歳)が溺れかけていることに気付いた。

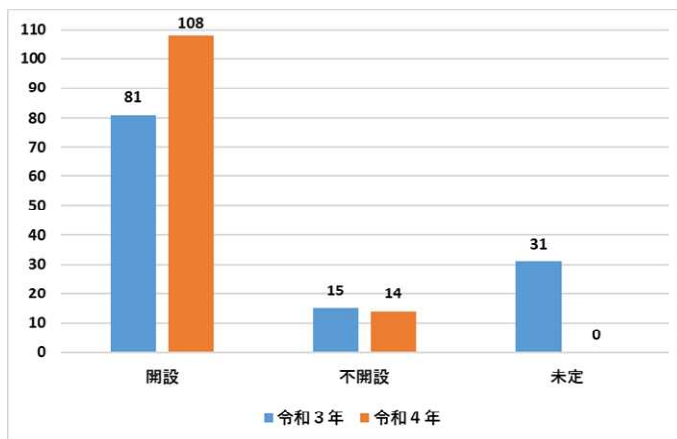
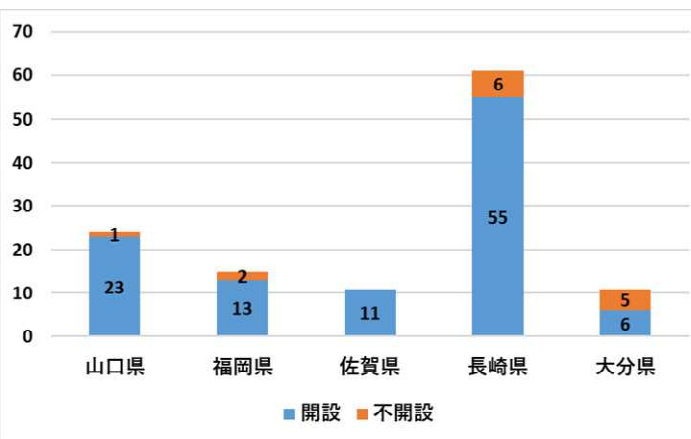
少年の内2名が救助に向かったが一緒に流されたため、付近目撃者が119番通報し、消防のゴムボートにより救助された。

遊泳中の事故防止対策

- ◆子供だけで海に行かない
- ◆遊泳禁止区域では泳がない
- ◆1人で泳ぎに行かない
- ◆天気が悪い時、海が荒れているときは泳がない
- ◆沖に流されないように注意する
- ◆波打ち際でも足を取られる危険があるので注意する

海水浴場の開設状況

第七管区海上保安本部管内において、各県ごと（山口県は西部のみ）の海水浴場の開設状況は以下の通りです。（第七管区調べ、7月5日現在）



何故、海水浴場以外の場所が危険なのか・・・

開設されていない海水浴場等では、監視員不在による**異常発見の遅延から、救助機関への通報が遅くなること**や遊泳区域が明示されないことにより、**遊泳者と水上オートバイやマリンスポーツ愛好者が混在した状況**となり、予期せぬ事故が起こる可能性が懸念されます。

海水浴に出かけるときは、事前にホームページ等で海水浴場の開設状況を確認しましょう！

令和3年における七管本部管内の海水浴場（七管本部調べ）141箇所の内、開設海水浴場で15名、不開設海水浴場で3名、海岸等で7名の海難が発生しました。

（死者数は、開設海水浴場で2名、不開設海水浴場で0名、海岸等で1名）

不開設海水浴場での事故 ～無謀な行為はやめましょう！～

使用のゴムボート



当庁潜水士



令和3年8月15日（土）1300頃、福岡市中央区所在の福浜海岸から友人3名がゴムボートに乗って沖の人工島に向かいゴムボートの外側でバタ足で泳いでいた少年（当時17歳）が疲れを訴え、ゴムボートに乗船しようとした際、バランスを崩し転覆したため3人とも海に投げ出された。

3人は海岸に泳いで戻ろうとしたが、バタ足をしていた少年の姿が見えなくなったことから、2人のうち1人が119番通報した。

その後、少年は現場で捜索中の当庁潜水士により海中で発見され、病院に搬送されたが、医師により死亡が確認された。

ウォーターセーフティガイド（遊泳編）は、皆様が安全に遊泳を楽しめるように、遊泳中の注意事項や心がけ、万が一溺れてしまったときなどの対処方法を分かりやすくまとめています。

海での遊泳は楽しいものですが、少なからず**リスク（危険）**は存在します。リスクに対する身の守り方を知り、安全に遊泳を楽しむために、一度ご確認ください。

詳しくはウォーターセーフティガイド（遊泳編）はこちら → →

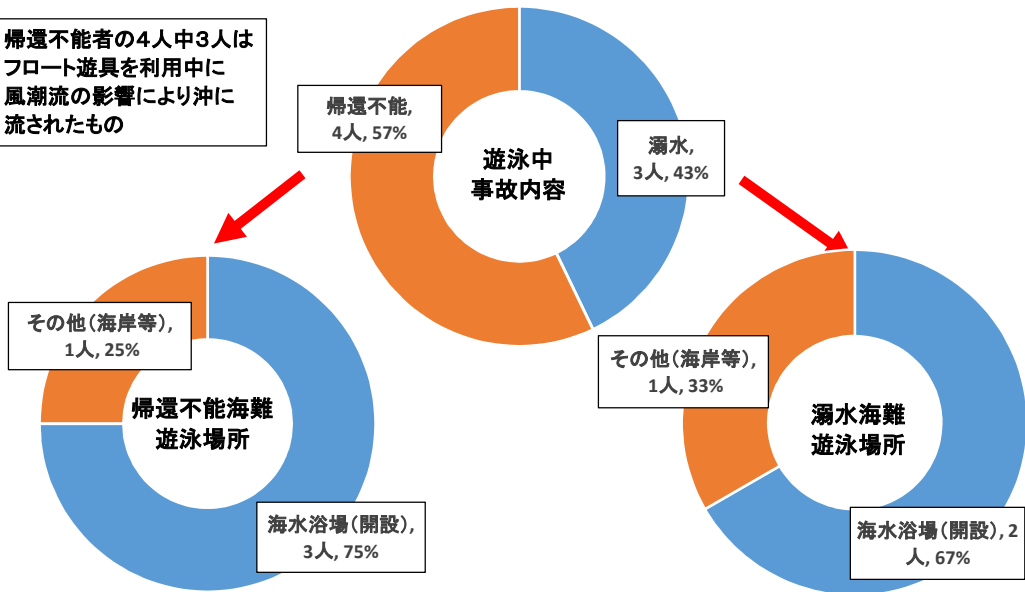
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/swimming/index.html>



令和4年福岡県海水浴場状況
開設海水浴場:13ヶ所 不開設海水浴場:2ヶ所

令和3年(7月~8月) 福岡県内遊泳中海難発生状況

帰還不能者の4人中3人は
フロート遊具を利用中に
風潮流の影響により沖に
流されたもの



【事故事例】

令和4年7月2日13:00頃、事故者(12歳)は家族とともに、海水浴場を訪れた。事故者はアヒル型フロート遊具(1名乗り)に乗り、父親等とともに遊泳し、母親は砂浜で見学していた。

同日14:00頃、事故者が沖合方向に流されていたため、父親が戻ってくるように言ったが、一瞬のうちに沖に流されていった。父親の友人が浮き輪を持って救助に向かい、同時に父親が海上保安庁等に救助要請を行った。父親の友人が事故者を確保したところ、近くを遊走中の水上オートバイにより救助されたもの。



フロート遊具

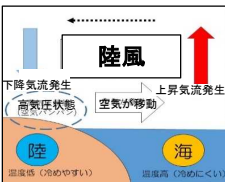
※画像は本件とは関係ありません。

●フロート遊具使用中の事故防止のために

・子供から目を離さない

水に浮いているものは想像以上に風の影響を受けやすいため、子供が乗ったフロートから目を離さないようにしましょう。

また、波打ち際でも、子供が波にさらわれ沖に流される事故が発生していることから、常に子供から目を離さないようにしましょう。



・風の強い日は使用を控える

海岸に吹く風には、「陸風」と「海風」があり、「陸風」は陸から海へと吹く風であり、「海風」は海から陸へ吹く風の事です。

「陸風」が強いとフロートが沖へと流され、岸に戻れなくなるので、海水浴場での風向き強さ等、十分に気を付けましょう。

・フロートが流された場合は、無理せず速やかに救助を求めましょう。

流されているフロートに乗った子供を助けようとした大人が無理して泳ぎ、溺れて事故に遭うケースも過去に発生しています。

無理せず、付近の監視員やライフセーバー、救助機関(海上保安庁等)に救助を求めましょう。

※遊具の流出に備えて連絡先等の記入をお願いします。



遊泳中の安全に関する詳しい情報については、ウォーターセーフティガイド(遊泳編)をご覧ください。

<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/swimming/index.html>

